

耳寄りな話

国立長寿医療研究センターの調査によると、認知症が疑われるお年寄りの内、5%の人は耳に大きな耳垢が詰まっていたとの結果をまとめました。逆に、耳垢を取り除くと聴力が上がり、認知機能も良くなったそうです（6月3日付朝日新聞）。

同センター耳鼻咽喉科の杉浦彩子科長によると、物忘れ外来を受信した614人の内、耳に小指の先よりも大きな耳垢が詰まっていた人が32人おり、この方々は、耳垢を取り除く前は平均44デシベルの音までしか聞き取れなかったが、取った後は39デシベルまで聞こえるようになったとの事です。

また、認知機能テストでは耳垢を取る前は平均17.0点だったが、取って平均1カ月後に調べると17.8点になったといひます。

年を取ると耳が遠くなるものだと軽く考えがちですが、もしかしたら耳垢のせいかも知れず、ちょっと耳が聞こえ難くなった人は耳鼻科の先生に診てもらった方が良くかも知れません。

高齢者は何故耳垢が溜まり易くなるのかというと、年齢と共に耳垢を外に出す力が弱くなるからだそうで、年を取るといふ事はそういうところにも影響するのかと、改めて感じています。

耳が耳垢で塞がれて聞こえ難くなると、会話力が減退し、それによって他者とのコミュニケーションが上手く取れなくなります。その結果気持ちがどんどん内向きになり、引き籠り状態に近くなります。

周りの人々とは没交渉で、会話も上手く繋がらないといふ事になると、誰しも認知症を疑うことになります。

他者とコミュニケーションを取る為には、相手の思いを感じとり、自分の思いを相手に伝える力が必要ですが、それ以上に重要なのは、コミュニケーションを取りたいという積極的な気持ちです。目が見えない、耳が聞こえないといふ場合には代替の手段はありますが、コミュニケーションを取りたいといふ自分自身の気持ちは代替がききません。その大事な気持ちが、耳が聞こえ難くなる事で萎えてしまうといふ事になれば、事は重大です。

たかが耳垢、されど耳垢ですね。自分にとって都合の悪そうな時には難聴になる、といふのは笑って済ませられますが、最近耳が少し遠くなって来たのではといふ人が周りにいたら、軽く考えず、まずは耳鼻科を受診するよう勧めるのが良さそうです。（塾頭：吉田 洋一）